

2-S19

創薬等先端技術支援基盤プラットフォームによる 戦略的アカデミア創薬の推進

2020.3.17 Tue.
8:50 - 10:20

会場：第93回日本薬理学会年会 会場
パシフィコ横浜 会議センター
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1
D会場 (4階413)

日本医療研究開発機構 (AMED) の創薬等ライフサイエンス研究支援基盤事業 (BINDS) では、創薬やライフサイエンス研究の推進を図るために、長年にわたりわが国が培ってきた研究基盤・技術の提供を通じて研究者の支援を行ってきています。事業開始から3年近くの間には支援総数は既に1800件を超えました。AMEDではBINDS事業をさらに活用していただくために、このたびシンポジウムを設けて各領域の研究代表者らから当事業の支援内容やそこで得られた最新の成果を紹介することとしていますのでふるってご参加ください。なお、当シンポジウムに先立ち前日の3月16日(月)の昼に学会との共催で関連のランチョンセミナーが開催されることになっておりますので、出席をご希望する方は学会の案内に従ってご登録をお願いします。

◆講演者◆

善光 龍哉 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 創薬戦略部)

橘 敬祐 (大阪大学大学院薬学研究科)

土井 健史 (大阪大学大学院薬学研究科)

香月 康宏 (鳥取大学染色体工学研究センター)

内藤 篤彦 (東邦大学医学部生理学講座細胞生理学)

前仲 勝実 (北海道大学大学院薬学研究院創薬科学研究教育センター生体分子機能学研究室)

BINDS HPはこちら



◆オーガナイザー◆

辻川 和丈 (大阪大学大学院薬学研究科)

田之倉 優 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

【お問い合わせ先】

日本医療研究開発機構 (AMED)

創薬戦略部 医薬品研究課 創薬等ライフサイエンス研究支援基盤事業担当
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-1 読売新聞ビル 22F

TEL: 03-6870-2219 FAX: 03-6870-2244 Email: 20-DDLSG-16@amed.go.jp

講演プログラム

8:50-9:00

AMED 創薬等ライフサイエンス研究支援基盤事業 (BINDS) の紹介

善光 龍哉 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 創薬戦略部)

9:00-9:20

非アルコール性脂肪肝炎 (NASH) 克服を目指した核内受容体 PPAR α の新規活性化剤の創製

橘 敬祐・土井 健史 (大阪大学大学院薬学研究科)

近年 NASH は増加しているものの治療薬は上市されておらず、その開発が急務となっています。核内受容体 PPAR α は肝臓で脂質代謝を改善し抗炎症作用を持つことから、NASH 治療標的として注目されています。演者らは、独自に構築した PPAR α リガンドのスクリーニング系を利活用し、ピラゾロピリジン誘導体を新規 PPAR α 選択的作働薬として見出しました。これら化合物の薬効解析及び合成展開による化合物の高度化に関して報告します。

9:20-9:40

人工染色体技術を用いた創薬研究への応用

香月 康宏 (鳥取大学染色体工学研究センター)

我々は独自の染色体操作技術を用いて、内在遺伝子を全く含まず、Mb 単位の DNA が搭載可能で、宿主染色体とは独立して維持されるヒト人工染色体 (HAC) ベクター及びマウス人工染色体 (MAC) ベクターを構築し、ヒト化モデル動物の作製、疾患モデル動物の作製、遺伝子治療用のベクターの作製などに応用してきました。HAC/MAC 技術は基礎研究だけでなく、創薬研究・医療応用などへの活用が大きく期待できます。

9:40-10:00

アカデミア創薬支援のための心血管安全性薬理試験

内藤 篤彦 (東邦大学医学部 生理学講座細胞生理学)

開発候補化合物の心臓に対する安全性をより早期に、より正確に評価することは、創薬研究において最も重要な事項の一つです。BINDS 事業を通じて我々は、hERG 試験及びげっ歯類・非げっ歯類を用いた心血管系安全性評価試験を通じてアカデミア創薬を支援するとともに、ヒト iPS 細胞由来心筋細胞を用いた新しい心毒性評価系の開発、抗がん薬による心毒性の評価・心毒性出現機構の解明といった研究を進めています。

10:00-10:20

北大創薬センターの医薬品モダリティと臨床に向けたアカデミア創薬の取り組み

前仲 勝実 (北海道大学大学院薬学研究院創薬科学研究教育センター生体分子機能学研究室)

北海道大学は、アカデミア創薬研究を促進するため、2011 年に創薬科学研究教育センターを設立し、シーズから前臨床までの統合的な創薬体制を整え、低分子・中分子化合物のスクリーニングから抗体医薬等のバイオ医薬品研究までの幅広い創薬モダリティ研究を進めています。今回は、クライオ電顕、ADME 評価と誘導体合成を進めるための東京大学創薬機構構造展開ユニットとの協力体制など、現在の創薬スキームについて例を挙げて紹介します。